

**TAC**

For the USCMA Exam

---

---

# USCMA

---

---

USCMA Basic Vol.1



Ver.2 テキスト

## ＜＜テキストについてのご注意＞＞

このテキストは、米国公認管理会計士（USCMA）試験を目指す日本人受験者を対象に作成されたものです。USCMA 試験は英語と日本語で行われますが、日本人が内容を理解する上では、日本語での解釈が効果的であることは言うまでもありません。そのため、本テキストでは、米国の各種会計基準（U.S. GAAP など）を、日本の企業会計基準委員会や監査基準などを参考にしつつ、日本語で解釈しています。

日本語と英語は異なる言語であるため、解釈に多少の差異が生じる場合があります。しかし、日本の企業会計審議会は米国の会計基準を参考に日本の基準を策定していることを踏まえると、日本の解釈は妥当性が高いと考えられます。また、日本の会計基準を逸脱した表現は、日本の会計に精通している方々に誤解を与える可能性があります。さらに、資格取得後に日本国内で業務を行うケースが多いことを考えると、日本の会計基準や監査基準の用語に慣れることも重要です。

そのため、本テキストでは、日本語による解釈を重視していますが、試験を英語で受験される場合、最終的には英語の原文を理解できるように習熟を進めてください。本書を活用し、試験合格を目指す皆様に心より応援しております。

TAC 米国公認管理会計士講座



# USCMA

## *Basic*

## *Textbook*

## Contents

### Vol.1

<b>0. Introduction</b> （はじめに） .....	1
<b>1. Product Costing</b> （製品原価計算） .....	1-1
1. Financial statement と Product costing .....	1-2
2. Cost の意義 .....	1-3
3. Fundamental processes .....	1-6
4. Cost Flows .....	1-15
5. Job-Costing System（個別原価計算） .....	1-26
6. Process-Costing System（総合原価計算） .....	1-45
<b>2. Cost Allocation</b> （原価配賦） .....	2-1
1. Cost Allocation to Department—in case of job costing .....	2-2
2. Cost Allocation to Department—in case of process costing .....	2-13
3. Activity-Based Costing（ABC、活動基準原価計算） .....	2-16
4. Life-Cycle Costing（ライフサイクルコストイング） .....	2-29
5. Joint Products and By-Products（連産品と副産物） .....	2-31
<b>3. Standard Costing</b> （標準原価計算） .....	3-1
1. Standard costing の意義 .....	3-2
2. Standard costing の手続 .....	3-3



<b>4. Variable Costing（直接原価計算）</b>	4-1
1. Variable Costing（直接原価計算）	4-2
2. Absorption Costing との比較	4-11
3. Segment 別損益の計算	4-19
<b>5. Measurement of Cost Behavior（コストビヘイビアの測定）</b>	5-1
1. Cost Behavior（コストビヘイビア）	5-2
2. Measurement of Cost Behavior（コストビヘイビアの測定）	5-6
<b>6. CVP Analysis（CVP 分析）</b>	6-1
1. 利益計画と CVP Analysis（CVP 分析）の基本公式	6-2
2. CVP Analysis（CVP 分析）	6-6
<b>7. Budgeting System（予算管理システム）</b>	7-1
1. Budgeting system（予算管理システム）	7-2
2. Budget planning（予算編成）	7-5
3. Budgetary control（予算統制）	7-24
<b>8. Performance Management（業績管理）</b>	8-1
1. Responsibility Centers（責任センター）	8-2
2. Financial Performance Measures（財務業績尺度）	8-8
3. Nonfinancial Performance Measures（非財務業績尺度）	8-26
4. Incentive compensation（インセンティブ報酬）	8-35
<b>9. Process Management（プロセス・マネジメント）</b>	9-1
1. Overview	9-2
2. Shared Service、Outsourcing、Off-shore Operations	9-7
3. Management Philosophies and Techniques for Performance Improvement	9-14
<b>10. Project Management(プロジェクト・マネジメント) <u>参考論点</u></b>	10-1
1. Overview	10-2

2. Initiating（立上げ） .....	10-5
3. Planning（計画） .....	10-7
4. Executing（実行） .....	10-14
5. Monitoring and control（監視・コントロール） .....	10-14
6. Closing（終結） .....	10-21
7. Role（役割） .....	10-22
索引 .....	Index



# Introduction（はじめに）

## (1) Managerial Accounting

### ① Managerial Accounting（management accounting 管理会計，MA）の意義

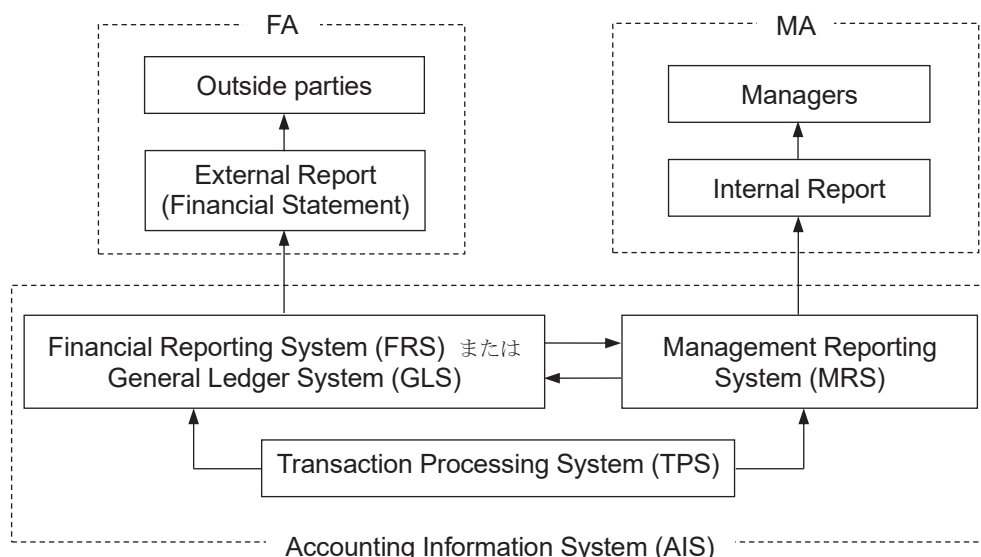
Managerial accounting：組織内部の manager（経営管理者）に会計情報を提供するための会計。

Financial accounting（財務会計、FA）との根本的な違いは『誰に対して会計情報を提供するか』という点にある。以下に、両者の相違をまとめておく。

	FA	MA
Primary users (第一義的な利用者)	Outside parties (外部の団体) 株主の投資決定や債権者の貸付に関する決定に用いられる	Organizational managers (組織の経営陣) 経営管理者が行う経営管理活動を支援する
Freedom of choice (選択の自由)	GAAP (一般に認められる会計基準) 不特定多数の外部者の目に触れる情報であるため、社会的なルールに基づいて作成する必要あり	No constraints (制約はない) 内部者しか目にしない情報であるため、社会的なルールで規制する必要がない
Time focus (焦点をあてる期間)	Past orientation (過去) 過去一年間に稼ぎ出した利益、これまでに蓄積してきた財産を報告する	Future orientation (未来) 過去の実績も重要であるが、どちらかといえば将来どうなるか(どうすべきか)に関心がある
Time span (報告頻度)	Less flexible (柔軟性なし) 一定期間 (四半期・一年) 毎の報告が求められる	Flexible (柔軟) 会社が自由に決めればよい
Reports (報告書)	Summary reports (要約) 会社全体の利益・財産について報告する	Detailed reports (詳細) 製品別・地域別・顧客別など詳細な単位について報告する

## ② Accounting Information System (AIS ; 会計情報システム)

会計データを処理する accounting information system (AIS ; 会計情報システム) は、bookkeeping (簿記) と cost accounting (原価計算) からなる。



Transaction Processing System (TPS) :

トランザクション処理システム。経済事象を財務取引（仕訳）に変換する。

Financial Reporting System (FRS) または General Ledger System (GLS) :

TPS 等の情報源から財務情報を集約し、財務報告等の外部への報告を作成する。

Management Reporting System (MRS) :

予算編成や差異分析など、ビジネス上の意思決定や問題解決のための内部財務情報を提供する。

## ③ FA（財務会計）と Cost Accounting（原価計算）

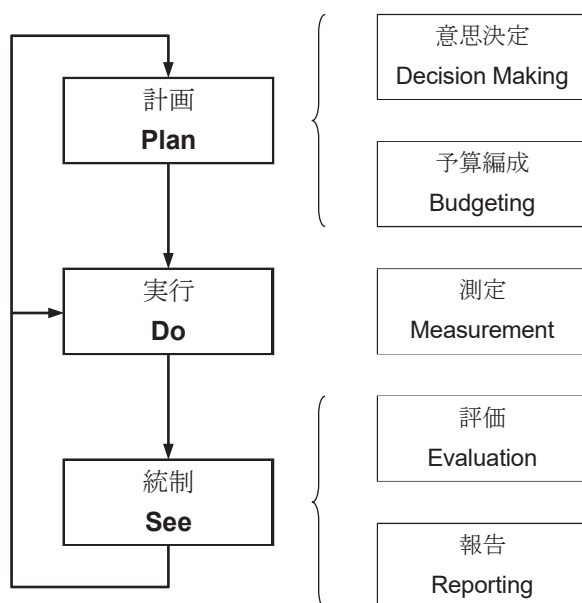
製造企業が financial statement を作成するにあたり、cost accounting が必要となる。具体的な内容は、第 1 章、第 2 章で取り上げる。

## ④ MA（管理会計）と Cost Accounting（原価計算）

MA における cost accounting の役割を、企業がその目標を達成するために行っている管理活動の流れ（management process 経営管理過程<sup>1</sup>）に沿って概観しておく。

<sup>1</sup> Management process は、Plan (計画)・Do (実行)・See (統制) や Plan (計画)・Do (実行)・Check (比較)・Action (是正行動) というプロセス (PDCA サイクル) で紹介されることが多い。

また、経営管理に必要な会計情報を作成し、経営管理者に提供する職位を Controller という。



まず **manager** は、様々な問題を解決するために種々の意思決定を行う。例えば、生産能力の不足を解消するために設備を購入すべきか否か、利益を最大化するためにはどの製品の販売に注力すべきかといった問題に対して、自らの意思を決定する必要がある。意思決定に際しては、経験や勘だけに頼るのではなくデータに基づいて合理的に行う必要がある。**Accounting information system** には **manager** の意思決定を支援するという役割があり、詳細は**第11章・第13章**で取り上げる。

次に **manager** は、**budget (予算)** という管理ツールを用いて企業活動を計画し統制する。

予算編成に先だって、目標利益を獲得するのに必要な販売量等を大まかに検討する。この検討には「売上高が〇〇円の時、原価が××円になる」という予測が不可欠で、**variable costing (直接原価計算、第4章)**を基礎とした**CVP分析 (第6章)**というツールが用いられる。また、こうした検討には、原価を変動費と固定費に分けておくことが有用となるため、変動費・固定費の区分について**第5章**で取り上げる。

予算が編成されると、予算に示された目標の達成を目指して、実際に業務執行がなされる。業務が執行されれば、それにとまって売上高がいくら獲得できたか、原価がいくら発生したかという、実績情報の収集・計算・記録が **accounting information system** によって行われる。実績情報が得られると、予算（目標）との対比から目標との差異（ズレ）が把握される。差異の発生原因を究明し、改善することで企業業績の向上につなげていくことができる。このような、実績情報の収集・計算・記録から差異情報の提供といった一連のプロセスについても **accounting information system** が情報を提供する。以上の内容は、第7章で詳しく紹介する。なお、製造原価の管理に関しては、**standard costing**（標準原価計算）と呼ばれるツールが用いられ、これについては第3章で紹介する。

次に、実績情報や差異情報は、次の予算編成にフィードバックされ、予算管理プロセスは終結する。

また、予算を用いた管理プロセスは、事業部、工場、営業所、部、課といった企業組織の管理単位と結びつけて行われるのが通常で、各組織単位の管理者（事業部長、工場長、営業所長、部長、課長）は、自らの組織単位に割り当てられた予算（目標）を達成すべく業務を執行する。したがって、各組織単位自体の業績、さらには、管理者自身の業績を測定・評価することが必要になる。今日、日本でも成果主義という言葉が頻繁に耳にするが、このような業績に関する情報は報酬とも関連を持っている。業績管理システムについては第8章で詳しく紹介する。

さらに最近では、組織単位に着目した伝統的な管理のみならず、組織横断的に実行されるプロセスの管理（第9章）や、プロジェクトの管理（第10章）が注目を集めており、これらも本書の中で取り上げる。

**Accounting information system** に対して財務会計情報と管理会計情報の提供が求められていることは理解できたであろうか。管理会計情報の作成において、**cost accounting** が具体的にどのような情報を作成すれば良いのかを考えていくのが、このテキストの大きなテーマの1つとなる。

#### ⑤ Transaction cycle（取引サイクル）

**Accounting information system** における主な **transaction cycle**（取引サイクル）を簡単に紹介しておく。取引サイクルとは経理部門内の中核的な機能をさし、主に **revenue cycle**（収益サイクル）、**expenditure and cash disbursement cycle**（支出サイクル）、（現金出納サイクル）、およびその他のプロセス（取引の認識や円滑化など）がある。

## Revenue cycle の flowchart（フローチャート）

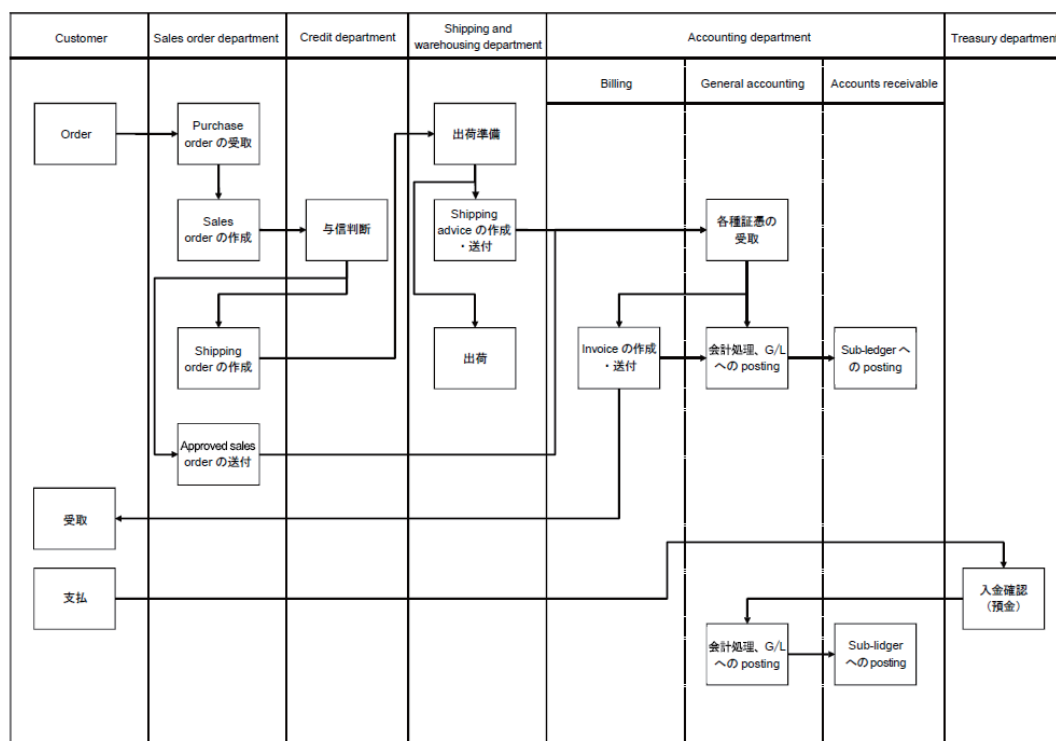
**Revenue cycle とは、顧客に財・サービスを販売し、顧客から売上代金を回収するサイクルである。** Revenue cycle では、主に以下の業務活動が営まれている。

- ① Sales order entry（受注受付）
- ② Shipping（出荷）
- ③ Billing（請求）
- ④ Management of accounts receivable（売掛金管理）
- ⑤ Cash collections（現金回収）

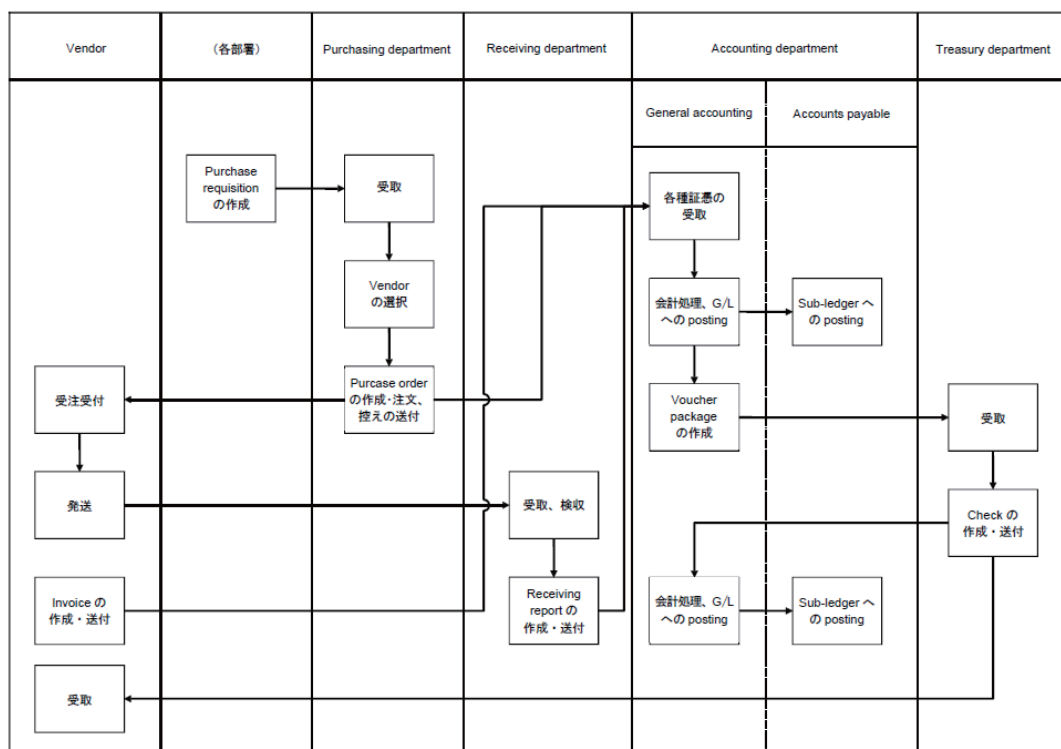
Department Function	Sales order （受注受付）	Credit （信用調査）	Shipping （出荷）	Accounting （経理）	Treasury （財務）
Sales order entry	受注の受付 出荷の依頼	信用調査 （出荷依頼）			
Shipping			出 荷		
Billings				請 求 売上の会計処理	
Management of accounts receivable				売掛金の管理 貸倒の会計処理	貸倒の承認
Cash collection				回収の会計処理	現金回収



## a) Revenue cycle の flowchart



## b) Expenditure and cash disbursement cycle の flowchart



## ⑥ AIS が提供する情報

最後に、accounting information system が提供する情報を分類してみる。この分類は相互に重複する部分もあるが、会計情報全体を理解する上での一助になるであろう。

### A. 実績記録情報

実績記録 (scorekeeping) 情報は、経営活動の現状を知り、その業績を判断するために不可欠な情報である。この情報は、財務会計情報と管理会計情報の基礎となる情報で、特に公表用財務諸表は、実績記録情報から作成される。

### B. 注意喚起情報

注意喚起 (attention directing) 情報とは、予算 (目標) と実績を比較し、差異を明らかにし、経営者の注意を喚起するための情報である。したがって、この情報には、前述の実績記録情報が必要となる。注意喚起情報は、予算管理プロセスにおいて必要となる。

### C. 問題解決情報

問題解決 (problem-solving) 情報とは、将来採りうる代替的コースの選択において、どの案が最善かを定める上で役に立つ情報である。実績記録情報と注意喚起情報は、企業の経営管理上、常に必要となる情報であるが、この問題解決情報は、問題に直面したときに必要となる情報である。

## (2) Financial Management

Financial Management (財務管理) : financing (資金の調達) と investment (資金の投資・運用) を統合的に管理すること<sup>2</sup>。

資金の調達・運用は、長期か短期かという観点から2つのタイプに分類される。

### ① 長期の調達と運用 (投資)

Fixed assets (固定資産) に投資された資金は、depreciation (減価償却) の計上を通じてゆっくりと (数年間かけて) 回収される。こうした長期の運用には、長期間返済不要な資金調達手段である long-term debt (長期債務) や返済不要な資金調達手段である stockholders' equity (株主資本) によって調達された資金を用いるのが一般的である。

Fixed assets のような長期の資金運用については第13章で、それに対する長期の資金調達については第14章で紹介する。

### ② 短期の調達と運用

Inventory (棚卸資産) や account receivable (売掛金) といった current assets (流動資産) に投資された資金は、短い期間で回収される。こうした短期の運用には、current liabilities (流動負債) のような短期的な資金調達手段が用いられるのが一般的である。

Current assets と current liabilities を working capital (運転資本) と呼ぶが、短期の調達と運用の管理は working capital management (運転資本管理) として第15章で紹介する。

なお、以上のように、長期の investment は長期の finance で賄い、短期の investment は短期の finance で賄うことを maturity matching (満期のマッチング) という。

---

<sup>2</sup> 財務管理上の問題を扱う職位を Treasurer という。

【MEMO】

**基 本 問 題 1**

- (1) Which of the following topics is the focus of managerial accounting?
- a. Financial statements and other financial reports.
  - b. Historical cost principles.
  - c. The needs of creditors.
  - d. The needs of the organization's internal parties.

【解答と解説】

- (1) **(d)** Choice "d" is correct. Managerial accounting focuses on the needs of internal users (managers) and on data relevant for decision making.

Managerial accounting が焦点をあてるトピックとして正しいものを問う問題である。

Managerial accounting は、組織の内部者（manager）が経営管理を行う上で必要となる情報を提供しようとする会計であるから、当然、manager の情報ニーズに強い関心を持つ（誰も関心を持たない情報、関心を抱く必要のない情報を作成しても意味がない）。

Financial statement や他の financial reports に焦点をあてるのは、financial accounting である（a.は誤り）。Financial accounting は investors や creditors に対して会計情報を提供することを目的としている（c.は誤り）。

Manager は、自らの意思決定や行動が将来の costs や income にどのような影響を与えるかに関心をもつため、managerial accounting も将来の costs や income に関心を持つが、financial accounting は実際に発生した costs や実際に得られた income など、過去の実績に関心を持つ（b.は誤り）。

# 1. Product Costing（製品原価計算）

## Objectives

多くの企業はコストを計算するために、公式の計算システムとして原価計算システムを有している。原価計算システムにおいては、収集や配賦といった複雑なプロセスを経て、部門のコスト、あるいは製品のコストというように、何らかの対象についてコストを計算する。製品のコストを計算する方法として、個別原価計算と総合原価計算について学習する。

## Key Topics

1. Financial statement と product costing
2. Cost の意義と分類
3. Fundamental processes
4. Cost Flows
5. Job-Costing System（個別原価計算）
6. Process-Costing System（総合原価計算）



## 1. Financial statement と Product costing

本章と次章では、工業経営（製造業等）を営む企業が financial statement（財務諸表作成）のために行う cost accounting（原価計算）を紹介する。

商業経営<sup>1</sup>（小売業・卸売業等）

→ Cost accounting を行うことなく、financial statement を作成できる。

商業経営における取引：仕入れたモノをそのまま販売



Income statement（損益計算書）

Revenue（売上）@30×80個＝ 2,400

Expense（費用）@10×80個＝ 800

Profit（収益） 1,600

Balance sheet の inventory（棚卸資産）

@10×20個＝200

工業経営<sup>2</sup>（製造業等）

→ Cost accounting によって unit cost of product（製品単位原価。Product 1units を作るのにかった costs。下図の@？）を計算しないと正確な financial statement を作成できない。

工業経営における取引：仕入れたモノを別のモノに作りかえて販売



Income statement

Revenue @30×80個＝2,400

Expense @?×80個＝ ?

Profit ?

Balance sheet の inventory

@?×20個＝ ?

工業経営を営む企業が、financial statement 作成のために行う cost accounting のことを、特に product costing（製品原価計算）という。

<sup>1</sup> 商業経営を営む企業を Merchandising company という。

<sup>2</sup> 工業経営を営む企業を Manufacturing company という。

## 2. Cost の意義と分類

### (1) Costs（原価）の意義

経営活動①において消費された資源②を、貨幣支出額に基づいて測定③したもの。

①生産（製造）、販売、一般管理の3つの活動を指す。

②資源（Resource。物品・労働・その他）を消費したとき costs が発生する。

③Costs は、資源を取得する際に支払った貨幣支出額（cost of goods purchased 購入原価）に基づいて計算する。

### (2) Classifications of costs（コストの分類）

どの経営活動（生産、販売、一般管理）に伴って発生したかで次のように分類する<sup>3</sup>。

① Manufacturing costs（製造原価）

生産活動に要した costs。Factory costs（工場原価）ともいう。

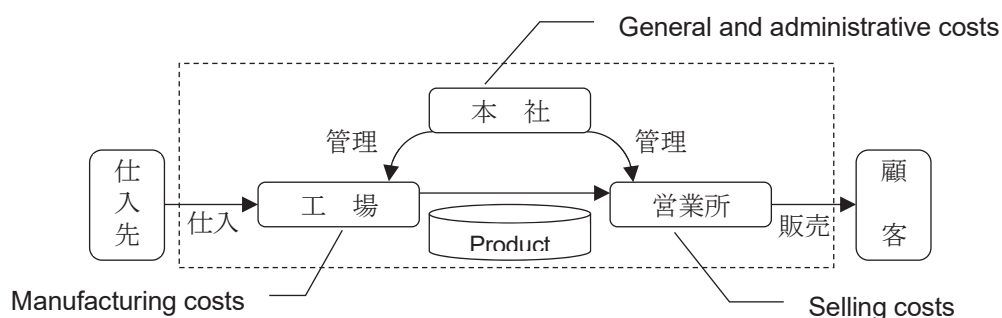
② Selling costs（=selling expenses、販売費）

販売活動に要した costs。

③ General and administrative costs（=G&A expenses、一般管理費）

一般管理活動に要した costs。

この分類は、通常、場所にかかわらせて行う。



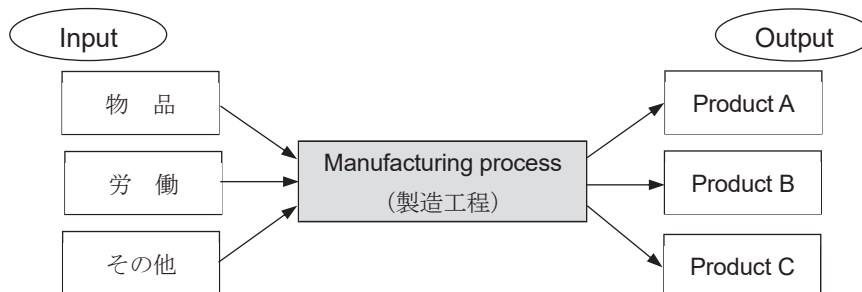
Unit cost of product は、product に manufacturing costs を集計して計算する。他方、selling costs と general and administrative costs は product に集計しない。

<sup>3</sup> ①～③の costs を総称して total costs（総原価）ということがある。

### (3) Classifications of manufacturing costs（製造原価の分類）

Unit costs を適切に計算するため、manufacturing costs をさらに分類する。

工場にあって product を製造しているところを manufacturing process（製造工程）といい、様々な資源を投入（消費）し、product を産み出している。



なお、input を output に変換することを conversion（加工）という。

分類 1：どの resource（物品・労働・その他）を消費したか

#### A. Materials / Material costs（材料費）

物品を消費したことで発生する costs。原料費、部品費など。

#### B. Labor costs（労務費）

労働を消費したことで発生する costs。工員の賃金、賞与など。

#### C. Expenses（経 費）

上記以外の資源を消費したことで発生する costs<sup>4</sup>。減価償却費、電力料など。

分類 2：特定の product に対して（容易に）跡付けることができるかどうか

#### a. Direct costs（直接費）

ある特定の product に対して、いくらかかったかを把握できる costs。

#### b. Indirect costs（間接費）

ある特定の product に対して、いくらかかったかを把握できない costs。

<sup>4</sup> 英語表記は expenses だが、ここでは「費用」という意味ではない。

以上の分類を組み合わせると、manufacturing costs は次の 6 つに分類される。

	Direct costs (直接費)	Indirect costs (間接費)
Materials	<b>Direct materials (直接材料費)</b> 例 raw materials (原料費)	<b>Indirect materials (間接材料費)</b> 例 supplies (消耗品費)
Labor costs	<b>Direct labor costs (直接労務費)</b> 例 工員に支払う wages (賃金)	<b>Indirect labor costs (間接労務費)</b> 例 supervisory salaries (監督者給与)
Expenses	<b>Direct expenses (直接経費)</b> 例 試験では direct expenses は無いという設定で出題されるため、省略。	<b>Indirect expenses (間接経費)</b> 例 property taxes (固定資産税)、rent (賃借料)、insurance (保険料)、depreciation (減価償却費)

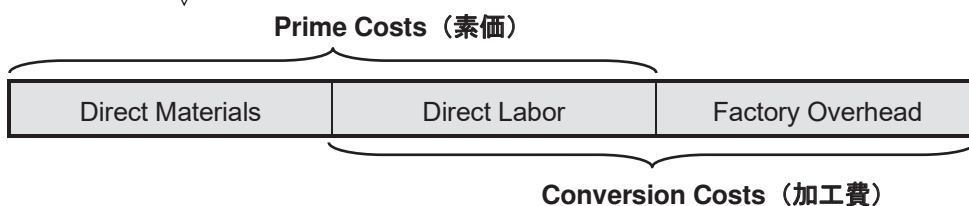


Indirect materials、indirect labor costs、indirect expenses の合計を、factory overhead (factory burden) (製造間接費) という。

	Direct costs	Indirect costs
Materials	<b>Direct materials</b>	<b>factory overhead</b> (factory burden)
Labor costs	<b>Direct labor</b>	
Expenses		



Direct materials と direct labor の合計を prime costs (素価)、direct labor と factory overhead の合計を conversion costs (加工費) という。



### 3. Fundamental processes（基本的なプロセス）

Product costing の基本的な計算手続を見ていく。

#### (1) 計算期間

Product の costs を早く知りたいというニーズがあるため、通常は1ヶ月ごとに行う。

#### (2) 計算手順

Unit cost of product は、次の3つのステップを経て計算される。

ステップ1：Cost accumulation（原価収集、費目別計算）

1ヶ月間の manufacturing costs を把握する。

ステップ2：Cost allocation to departments（部門への原価配賦、部門別計算）

1ヶ月間の manufacturing costs を departments（部門）ごとに集計する（小規模な工場では省略可。詳細は第2章1節・2節）。

ステップ3：Cost allocation to products（製品への原価配賦、製品別計算）

Manufacturing costs を product に集計して unit cost of product を求める。

#### Cost Accumulation

#### Costs

materials, labor, supplies, depreciation, etc.

#### Cost Allocation (to Departments)

#### Departments

machining, processing, assembly, finishing, etc.

#### Cost Allocation (to Products)

#### Products (or Services)

### (3) Cost objective (原価計算対象)

Costs を集計する対象を cost objective (cost object : 原価計算対象) といい、例えば、products (製品)、departments (部門)、services (サービス)、などがある<sup>5</sup>。

#### ① Product

Unit cost of product は、product に manufacturing costs を集計することで計算されるため、product は cost objective である。

#### ② Department

ステップ 2 (部門別計算) では、department ごとに costs が集計されるため、department も cost objective となる。

#### ③ Service

近年、サービス業でも cost accounting が利用されるようになってきており、その場合には services が cost objective として選択される。ただし、サービス業における cost accounting は、試験における重要性が低いいため、具体的な内容には触れない。

---

<sup>5</sup> Cost の集計対象となるものはすべて cost objective と呼ばれ、この他にも activity (第 2 章) product lines、customers、sales territories、channels of distribution、division といった各種の segment (第 4 章)、個々の project (第 10 章、第 11 章、第 12 章) といったものが含まれる。

### Example 1 – 1

当社では製品Aを生産・販売している。以下に示した当期（20XX年12月1日～12月31日）のデータに基づいて、以下の問に答えなさい。

#### 1. 生産・販売データ

Total units manufactured（完成量） 1,000個

Total units sold（販売量） 800個

（期末の時点で、200個の product が手許に在庫として残っている。）

なお、当期の販売価格は@\$2,500であった。

#### 2. 製造原価データ

##### ① Direct materials（直接材料費）

材料 a 15,000kg を\$750,000（@\$50）で購入し、そのうち12,000kg を消費した。

Direct materials purchased	\$750,000
----------------------------	-----------

Direct materials used	?
-----------------------	---

##### ② Direct labor costs（直接労務費）

工員の賃金は時間給で支払っている（labor rate（賃率）@\$10）。当期の作業時間は40,000時間であり、\$400,000を支払った。

##### ③ Factory overhead（製造間接費）

Indirect materials（間接材料費）	\$250,000
---------------------------	-----------

Indirect labor（間接労務費）	150,000
-----------------------	---------

Indirect expenses（その他間接費）	100,000
---------------------------	---------

Total	\$500,000
-------	-----------

#### 3. 販売費および一般管理費データ

• Selling expense（販売費） : \$200,000

• General and administrative expense（一般管理費） : \$360,000

問1 製品Aの unit cost of product（製品単位原価）はいくらか。

問2 当期の income statement（損益計算書）を作成せよ。また、product（製品）および materials（材料）の ending balance（期末残高）を求めよ。

## 問 1 Unit cost of product (製品単位原価) の計算

## (1) Cost accumulation (費目別計算)

Direct materials	\$600,000	←@\$50×消費量12,000kg
Direct labor costs	400,000	
Factory overhead	500,000	
<u>Manufacturing costs (製造原価)</u>	<u>\$1,500,000</u>	

## (2) Unit cost of product (製品単位原価)

$$\text{Unit cost of product} : \frac{\text{Cost of goods manufactured } \$1,500,000}{\text{Total units manufactured } 1,000\text{個}} = \$1,500/\text{個}$$

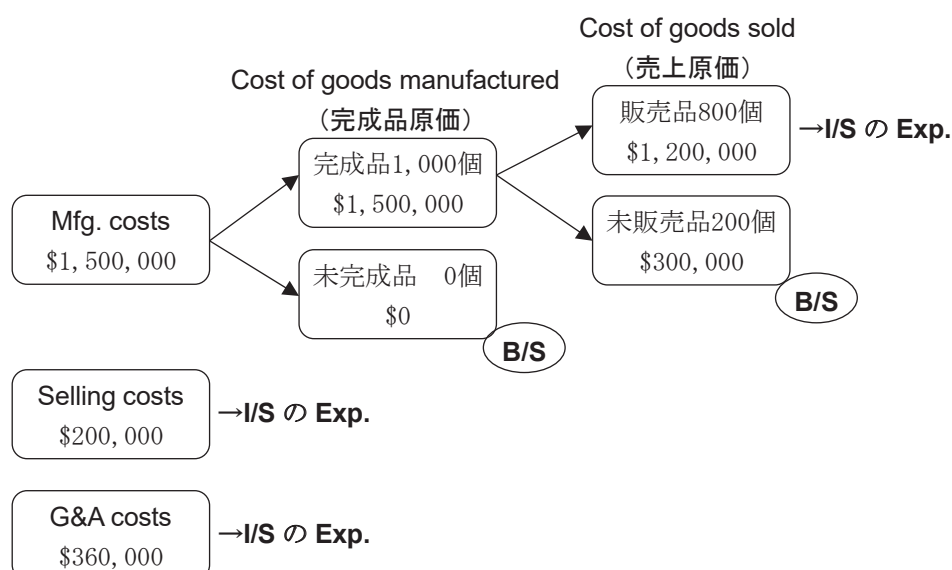
## 問 2 Income statement および balance sheet の作成

## Income Statement (の一部)

Sales (売上)	(販売価格@\$2,500×販売量800個=)	\$ 2,000,000
Cost of goods sold (売上原価)	(単位原価@\$1,500×販売量800個=)	<u>1,200,000</u>
Gross margin (売上総利益)		800,000
Selling, general and administrative expenses	(\$200,000+\$360,000=)	<u>560,000</u>
Operating income (営業利益)		<u>\$ 240,000</u>

## Balance sheet (の一部)

Product の ending balance	\$300,000 (=単位原価@\$1,500×月末在庫量200個)
Materials の ending balance	\$150,000 (=材料価格@\$50×月末材料3,000kg)





#### (4) Product costs vs period costs (製品原価と期間原価)

Product costs (製品原価)<sup>6</sup> : product に集計し、販売された product に対応する金額だけを expenses とする costs

Period costs (期間原価)<sup>7</sup> : product に集計せずにその期の expenses とする costs

**Example 1 – 1** において、manufacturing costs と selling, general and administrative costs で異なる扱いをしている点に注意して欲しい<sup>8</sup>。

Manufacturing costs は、生産した product に集計された後、販売した product の分だけを expenses として処理している (product costs として扱っている)。

具体的には、当期に1,000個生産したが、販売したのは800個だけで、残りの200個は在庫として次期に繰り越されている。そこで manufacturing costs も、当期に販売した800個分だけを cost of goods sold として費用計上し、売れ残った200個分は inventory として資産計上する (次期に繰り越した manufacturing costs は、次期以降、販売したときに cost of goods sold とする)。

これに対して、selling, general and administrative costs は当期に発生した分をそのまま当期の expenses として処理している (period costs として扱っている)。

例えば advertising costs (広告宣伝費) がかったとして、その広告宣伝によって、当期にどれだけ sales が増え、そして次期にどれだけ sales が増えるのかを具体的に把握することはできない。そこで、S,G&A については、すべて当期の sales の獲得に役立ったものとみなし、全額を当期の expenses とする。

Product costs と period costs の区別は、公表用 financial statements (特に income statement) の作成にあたって重要となる。

Total costs	Manufacturing costs	Product costs
	Selling, general and administrative costs (Non-manufacturing costs)	Period costs

<sup>6</sup> Product costs are all costs related to the manufacturing of the product. Product costs are inventoriable (i.e., considered as assets before the product is sold).

<sup>7</sup> Period costs are expensed in the period in which they are incurred and are **not** inventoriable.

<sup>8</sup> Manufacturing costs are specifically capitalized to the cost of the manufactured product, according to various available and appropriate methods. Non-manufacturing costs (e.g., selling general and administrative expenses) are expensed in the period incurred.

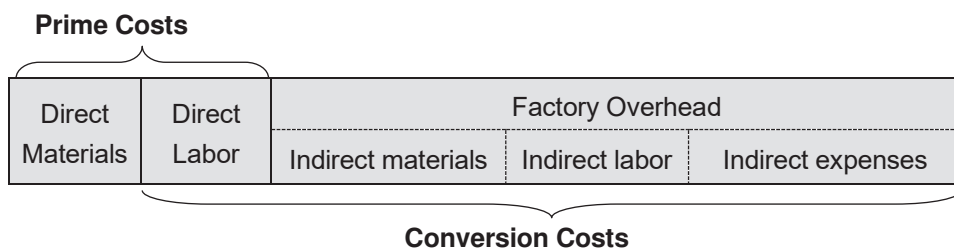
【MEMO】

## 基本問題 1

- (1) Which of the following types of costs are prime costs?
  - a. Direct materials and direct labor.
  - b. Direct materials and overhead.
  - c. Direct labor and overhead.
  - d. Direct materials, direct labor, and overhead.
  
- (2) Conversion costs do **not** include:
  - a. Direct materials.
  - b. Indirect labor.
  - c. Indirect materials.
  - d. Direct labor.
  
- (3) Which of the following is assigned to goods that were either purchased or manufactured for resale?
  - a. Relevant cost.
  - b. Period cost.
  - c. Opportunity cost.
  - d. Product cost.
  
- (4) Which one of the following best describes direct labor?
  - a. Relevant cost.
  - b. Period cost.
  - c. Opportunity cost.
  - d. Product cost.

## 【解答と解説】

- (1) (a) Direct material と direct labor の合計を prime costs という。



- (2) (a) Direct materials は conversion costs に含まれない。
- (3) (d) 「(再)販売するために購入ないし製造された goods に集計される costs」は product costs である。  
 なお、relevant costs と opportunity costs は第11章で紹介する。
- (4) (d) Direct labor は manufacturing costs であるため、product costs として処理される  
 (product に集計され、販売された product に対応する金額だけが当期の expense として処理される)。

【MEMO】